

はじめに

表題については鹿児島県立博物館研究報告(第21号)「宇治群島家島の自然調査概要報告」に行田義三氏が参考文献とともに調査結果を発表されており、一部重複する所があるが今回の調査結果と併せて報告する。

1 調査の概要

10月11日、今回の調査予定になかった家島で一泊、早々に朝食を済まし7時30分、上ノ島に向かって出港する。15分位進んだらうか、突然船足が落ちた。何事が起きたのかと心配すると、「草垣は昨日よりもっと上陸の条件が悪い」とのことである。確かにうねりが大きく、波頭が白くくだけている。急遽予定を変更。引き返し家島の調査をすることになった。今日調べる予定だった上ノ島の未調査地区が心残りだが、私にとって予定外の家島調査ができるのは有り難い。しかし地図もなく下準備ができていない。以前見た文献を思い出しながらのぶっつけ本番の調査となる。

家島に帰港して早速調査採集に取りかかる。宿泊地から小川沿いに進むと右手のブッシュの陰に幅40cmくらいのコンクリート階段が緩急取り混ぜて標高90mの頂上にある灯台まで続いていると教えてもらい階段を登る。登りは階段右斜面を見ながら進む。ここもタネガシマイマイ、チャイロマイマイの死殻が多く散乱している。タネガシマイマイはチャイロマイマイ10に対して3と少ない。殻も草垣のものに比べやや小さく外唇は白い、殻色も黄褐色で有色帯と無色帯がいる。堆積した落葉の下には生貝が多く出る。30mくらい登った辺りでやや小ぶりの臍孔のない褐色の死殻を見つけた。少し残っている殻皮をルーペで覗いて見るとこの宇治群島で新種記載されたハジメテビロードマイマイである。採りたかった貝の一つで生きた貝を探す手掛かりになる。

周囲の明るさに目が慣れるにつれウジグントウゴマガイ、クチビラキムシオイガイと特産種の採集個体も増え、いい状態ではないがオオスミヤマキサゴの死殻1個、ヤマトガイの仲間2個(わずかに残っていた殻皮を調べイトマキヤマトガイと判明)が採れる。60mほど登った付近でやっとハジメテビロードマイマイの生貝が採れる。しかしケブカヤマトガイ、チャイロキセルモドキ、ウジグントウギセル、ホリマイマイがまだ見つからない。頂上周辺もたいした収穫はなく下山しながら反対側の斜面を探す。落葉の下からピントノミギセル2本を新しく追加しただけで宿泊地まで下ってしまった。

遅い昼食を済まし、宿泊地の廃屋周辺を探すとベッコウマイマイ一種の死殻1個とヘソカドケマイマイ死殻2個、ホリマイマイ生貝2個、死殻数個が採れた。ホリマイマイを山中で探しても見つからない訳だ。こんな低地の草藪が生息地になっている。廃屋の前の小川(溝?)にカワナが沢山生息している。大きいもので3cmくらいあり殻頂部の欠損していないものも多く見られ、稚貝もゴマを撒いたようにいる場所もあり水が涸れない限り絶えることはないだろう。小川は港のコンクリート斜面で拡散して海に流れ込む。この水で湿った場所を探すは何も出な

い。廃屋の左前方標高87.4mの山裾を見るため藪漕ぎをしてガレ場の斜面を20mほど進むと低木林の中に入り込めた。落葉が厚く堆積している場所を選んで小さな貝を探すが出て来たのはキセルガイである。3cm弱のスマートな形をしている。ウジグントウギセルと思うが殻の色が違う。記載では確か暗褐色とあったが淡黄色である。2時間あまり探し続け数個体を見つけた。暗褐色6, 淡黄色3, 殻口やその形態から判断してウジグントウギセルの単なる体色変異だろう。広範囲に探したがこの種はそう多産しないようで、行田氏の報告に記録がなかったのも納得できる。

再び藪漕ぎをしながらガレ場を下りたあたりで落葉や転石の間にオカチョウジガイ類数個体を探ることができた。再度港に出て高潮帯を中心に打ち上げられている流木や漂流物の下を見て廻る。ヘソカドガイやオカミミガイの仲間がいるのではと推測しての事だが何も見つからず、岩場に移動し同じ高潮帯より下位にいた海産種のホソスジウズラタマキビ, アマガイ, キバアマガイ, フトスジアマガイ等を参考までに採集して今日の調査を終える。

10月12日, 6時20分起床, 夜半の雨は長時間は降らなかったようだ。鳥類班がもう観察を始めており, 階段沿いにマイマイがはい廻っていると教えてくれる。9時までに荷物を港に運ぶ予定だから時間がない。手早く朝食を済ませ荷物や採集品の整理をして山に入る。階段を中心に中腹位まで登ったが依然としてチャイロマイマイが多い。タネガシママイマイの生貝数個とハジメテビロードマイマイ死殻1個を採り下山。廃屋の周囲でホリマイマイを探すが白化した古い死殻ばかりで採る気がせず家島での採集を終了する。

2 家島産種と今回の採集記録及び家島以外の分布地

1981年10月と1983年10月の2回にわたって宇治群島の鳥類と植生の調査に参加した富山清升氏は家島の陸産種21種を記録。行田義三氏は2001年11月, 県立博物館自然資料収集整備事業の一環として宇治群島家島の総合調査に参加。県立博物館「宇治群島家島の自然調査概要報告」に陸産種18種, 淡水産2種を記録発表。両氏で25種の記録である。

陸産種

ヤマキサゴ科

オオスミヤマキサゴ *Aphanoconia osumiense* (Pilsbry, 1901)

模式産地：喜界島 分布：喜界島, 宇治家島, 向島, 口之島, 沖秋目島, 佐多岬, 宮崎県南郷町大島

産出量は少なく古い死殻1個を採集したが洗浄作業中に粉碎してしまう。

ヤマタニシ科

イトマキヤマトガイ *Japonia striatula* Kuroda, 1973

模式産地：男女群島男島 分布：男女群島男島, 宇治家島, 向島

産出量は少ない。かろうじて種の特徴を残した死殻2個を採集。

ケブカヤマトガイ *Japonia hispida* minato, 1982

模式産地：宇治家島 分布：宇治家島, 向島

行田氏同様未採集。産出が少ないうえに採集場所の選定を誤ったのかもしれない。

ゴマガイ科

ウジグントウゴマガイ *Diplommatina (Sinica) ujinsularis* minato, 1982

模式産地：宇治家島 分布：宇治家島，向島

産出量は比較的が多かったが対象物が殻高2.5mmと小さく採集するのに難渋した。

ムシオイガイ科

クチビラキムシオイガイ *Chamalycaeus expanstoma* minato, 1982

模式産地：宇治家島 分布：宇治家島，向島

特異な形態の殻口をしており，10数個生貝を採集したが産出量は少なかった。

ヘソカドガイ科

ヘソカドガイ *Paludinella japonica* (Pilsbry, 1901)

模式産地：高知県大月町柏島 分布：宇治家島，本州以南

今回の調査では採集できなかった。

キセルモドキ科

チャイロキセルモドキ *Luchuena nesiotica* (Pilsbry & Hirase, 1909)

模式産地：黒島，屋久島 分布：宇治家島，向島，黒島，屋久島，佐多岬，口之島
富山，行田両氏が調査したと思われる周辺を探したが，採集できず。

キセルガイ科

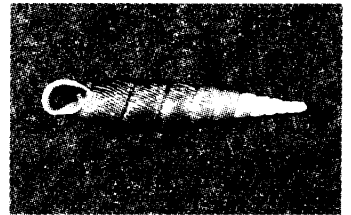
ピントノミギセル *Hemizaptyx pinto* (Pilsbry, 1901)

模式産地：種子島 分布：宇治家島，向島，種子島，屋久島，トカラ列島，その他
登山用階段，中腹の堆積した落ち葉の下から2個採集。

ウジグントウギセル *Mesophaedusa ujiguntoensis* (minato, 1982)

模式産地：宇治家島 分布：宇治家島，向島

港入り口，左側丘陵北斜面低木林の落葉が堆積した場所を広範囲に調査し数個体を採集。



ウジグントウギセル
(S L. 26.35mm)

オカクチキレガイ科

オカチヨウジガイ *Allopeas clavulinum kyotoense* (Pilsbry & Hirase, 1904)

模式産地：京都 分布：宇治向島，草垣上ノ島，北海道以南～八重山諸島
八重山諸島まで分布するが家島での産出量は少ない。

マルオカチヨウジガイ *Allopeas brevispira* (Pilsbry & Hirase, 1904)

模式産地：兵庫県新宮町篠首～香川 分布：宇治家島，本州，四国，九州，大隅諸島，
トカラ列島，奄美諸島

この種も産出量は少なく採集できなかった。

シリプトオカチヨウジガイ *Allopeas mauritianum obesispira* (Pilsbry & Hirase, 1904)

模式産地：琉球 分布：宇治家島，トカラ列島～八重山諸島

この種も産出量は少なく1個体のみ採集。

ホソオカチョウジガイ *Allopeas pyrgula* (Schmacker & Boettger, 1891)

模式産地：神戸 分布：宇治家島，本州，四国，九州，大隅諸島，トカラ列島，奄美諸島
この種も産出量は少なく富山の記録のみ。

トクサオカチョウジガイ *Allopeas javanicum* (Reeve, 1849)

模式産地：ジャワ 分布：宇治家島，近畿，中国，四国，九州，大隅諸島，トカラ列島，
奄美諸島，琉球列島

この種も産出量は少なく行田の記録のみであるが，行田の報文，家島目録からは脱落している。

ナメクジ科

ヤマナメクジ *Meghimatium fruhstorferi* (Collinge, 1901)

模式産地：対馬 分布：宇治家島，向島，本州，四国，九州，対馬，大隅諸島，トカラ
列島，奄美諸島

筆者はこの類は研究対象にしておらず目撃したのみ。

ホソアシヒダナメクジ科

イボイボナメクジ *Granulilimax fuscicornis minato*, 1989

模式産地：徳島県山川町・高越山 分布：宇治家島，山梨県，静岡県，和歌山県，徳島
県，香川県

筆者はこの類は研究対象にしておらず目撃したのみ。

ベッコウマイマイ科

Bekkochlamys sp. 分布：宇治家島，向島

死殻1個体を採集。

Nipponochlamys sp. 分布：宇治家島

未採集。

ナンバンマイマイ科

タネガシママイマイ *Satsuma* (*Satsuma*) *tanegashimae* (Pilsbry, 1901)

模式産地：種子島 分布：宇治家島，向島，草垣上ノ島，種子島，屋久島，大隅諸島，
トカラ列島

産出量が多いが草垣上ノ島産に比べやや殻が小さい。

ハジメテビロードマイマイ *Neochloritis tomiyamai minato*, 1982

模式産地：宇治家島 分布：宇治家島，向島

生貝は1個体のみと死殻数個体の採集だったが，調査時期によっては生貝を若干見られる
のではとの感触を感じた。

オナジマイマイ科

ヘソカドケマイマイ *Aegista* (*Plectotropis*) *conomphala* Pilsbry & Hirase, 1903

模式産地：屋久島 分布：宇治家島，向島，草垣上ノ島，種子島，屋久島，鹿児島市，開聞，
坊津，種子島，屋久島，口永良部島，黒島，口之島，中之島

産出量は少なく，未成殻，幼殻数個体を得た。

ホリマイマイ *Bradybaena circulus hirosihorii* Kuroda, 1973

模式産地：男女群島 分布：宇治家島，向島，男女群島

原種，パンダナマイマイの中に殻を混入したら，ほとんど判別できないくらいだが原種よりやや淡褐色をおび殻口外唇がより発達しており，産出量は多くない。

チャイロマイマイ *Phaeohelix submandarina* (Pilsbry, 1890)

模式産地：琉球 分布：宇治家島，向島，佐多岬，種子島，屋久島，口永良部島，黒島，トカラ列島，喜界島

産出量が多いが草垣上ノ島産に比べ殻色が淡い茶褐色をしている。

淡水産種

アマオブネガイ科

イシマキガイ *Clithon retropicta* (v. martens, 1879)

模式産地：長崎 分布：宇治家島，房総半島，能登半島以南

鹿児島県内にも多産するが，この島では行田の記録のみで今回も未採集。

カワニナ科

カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859)

模式産地：伊豆下田 分布：宇治家島，北海道以南，日本全国

港北側の山中より流れる小川(溝)に多産していたが，大きいもので30mm程度で，流水量のせいか県本土のものより小型である。

以上25種中，15種を採集確認できたが，1982年新種として発表されたケブカヤマトガイ，ウジグントウゴマガイ，クチビラキムシオイ，ウジグントウギセル，ハジメテピロードマイマイの5種のうちケブカヤマトガイを確認できなかったのは心残りである。

これらの新種を記載発表された湊宏氏の私信に「これほどの小さい島にこれだけの新種があったのかとの驚きの感激を，その中の1種に『ハジメテピロードマイマイ』と命名したものです」とあったのが印象的であった。

引用・参考文献

湊 宏，1982，宇治群島・草垣群島の陸産貝類相. *VENUS* 41 (2), 124-140.

湊 宏，1988，日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.

湊 宏，1994，日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 日本貝類学会.

富山清升，1984，宇治群島向島の陸産貝類相. *VENUS* 43 (3), 199-210.

富山清升，1984，タネガシママイマイ種内変異の研究. *VENUS* 43 (3), 211-227.

肥後俊一・後藤 芳央，1993，日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル貝類出版局.

東 正雄，1995，原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.

行田義三，2002，宇治群島家島の自然調査概要報告 (家島の陸・淡水産貝類相). 鹿児島県立博物館研究報告，第21号，19-25.

はじめに

宇治群島は、薩摩半島野間岬の南西約70kmに位置し、東南アジアと日本や極東シベリアを結ぶ鳥類の渡りの中継地として知られている。これまでに数回の調査が行われ、33科107種が記録されている（鹿児島県1987、鮫島1994、山元2002）。

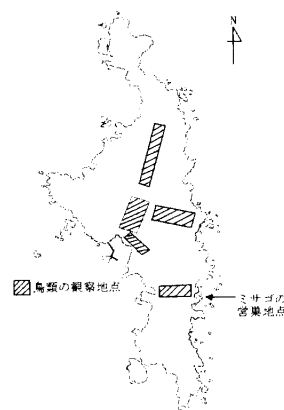
今回、2002年4月26～28日の3日間、9月11～13日の3日間及び10月11～12日の2日間にわたって、計3回の調査を実施したので報告する。

また、本調査や文献等を基にこれまでに宇治群島で確認された鳥類のリスト（36科116種）を新たに作成したので、文末に付した（付表）。

1 調査地の概要

(1) 家島

家島は、標高が低い部分ではモクタチバナを中心とする照葉樹が優占し、それより高い部分にはタブが出現する。林床の植生はまばらである。また、島の南東側斜面にはリュウキュウチクの群落とそれに続くハチジョウススキの草地が見られる。島の中央部には島全体の約半分を水源域とする小川と、尾根を隔ててもう1本の小川があって、1年を通じて水が流れている。海岸線は切り立った岩壁と岩礁帯からなり、砂浜は皆無に等しい。



宇治群島家島

(2) 向島

向島は清浦岳（標高319m）を中心とする北側部分と、笠沙岳（標高218m）を中心とする南側部分が大きな切れ込みを挟んで並んでいる。海岸線のほとんどは30m前後の断崖になっており、植生は乏しい。周りから見る限りに於いて水源は確認できない。島の南東斜面はハチジョウススキの草地となっており、その上部にモクタチバナを中心とする照葉樹林が広がっている。林床にはサツマサンキライやツルモウリンカなどの蔓性植物が密生している。

2 調査方法及び結果

家島の調査では、徒歩によって島内を移動しながら出現した全ての種を記録した。種の確認には、双眼鏡（8倍）と望遠鏡（20～45倍）を用い、種によっては写真撮影及びビデオ撮影を行った。また、10月の調査では標識調査も実施した。

本調査で確認できた種は、4月の調査で15科23種、9月の調査で11科13種、10月の調査で16科31種、計21科40種であった。このうち、ウミウ、アオサギ、コガモ、ハチクマ、ハイタカ、タシギ、カンムリカッコウ、コゲラ、キマユムシクイの8科9種は、宇治群島での初記録種であり、これらを加えると宇治群島で確認された鳥類は36科116種となる（付表）。

今回の調査における各調査ごとの出現種については、表1に示した。

表1 宇治群島家島・向島で確認された鳥類 (21科40種)

科名	種名・学名	4/26~28	9/11~13	10/11~12
ミズナギドリ科	オオミズナギドリ <i>Calonectris leucomelas</i>		○	
カツオドリ科	カツオドリ <i>Sula leucogaster</i>	○	○	○
ウ科	ウミウ <i>Phalacrocorax capillatus</i>	○※	○	○
サギ科	ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax</i>	○	○	○
	アマサギ <i>Bubulcus ibis</i>	○	○	○
	コサギ <i>Egretta garzetta</i>			○
	アオサギ <i>Ardea cinerea</i>	○※		
カモ科	コガモ <i>Anas crecca</i>			○※
タカ科	ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i>	○	○	○
	ハチクマ <i>Pernis apivorus</i>			○※
	トビ <i>Milvus migrans</i>	○	○	○
	ツミ <i>Accipiter gularis</i>			○
	ハイタカ <i>Accipiter misus</i>			○※
	ノスリ <i>Buteo buteo</i>			○
	サシバ <i>Butastur indicus</i>	○		
ハヤブサ科	ハヤブサ <i>Falco peregrinus</i>			○
シギ科	キアシシギ <i>Heteroscelus brevipes</i>			○
	チュウシャクシギ <i>Numenius phaeopus</i>	○		
	タシギ <i>Gallinago gallinago</i>	○※		○
ハト科	カラスバト <i>Columba janthina</i>	○	○	○
カッコウ科	カンムリカッコウ <i>Clamator coromandus</i>	○※		
キツツキ科	コゲラ <i>Dendrocopos kizuki</i>		○※	
ツバメ科	ツバメ <i>Hirundo rustica</i>	○		○
セキレイ科	ツメナガセキレイ <i>Motacilla flava</i>			
	亜種マミジロツメナガセキレイ <i>M. f. simillima</i>	○		○
	亜種キタツメナガセキレイ <i>M. f. macronyx</i>	○		
	キセキレイ <i>Motacilla cinerea</i>	○	○	○
	ハクセキレイ <i>Motacilla alba</i>			○
	ムネアカタバヒバリ <i>Anthus cervinus</i>			○
モズ科	モズ <i>Lanius bucephalus</i>	○		
ツグミ科	ジョウビタキ <i>Phoenicurus aureus</i>			○
	ノビタキ <i>Saxicola torquata</i>	○		
	イソヒヨドリ <i>Monticola solitarius</i>	○	○	○
ウグイス科	ウグイス <i>Cettia diphone</i>			○
	キマユムシクイ <i>Phylloscopus inornatus</i>			○※
	メボソムシクイ <i>Phylloscopus borealis</i>			○
ヒタキ科	サメビタキ <i>Muscicapa sibirica</i>			○
	コサメビタキ <i>Muscicapa dauurica</i>	○		○
メジロ科	メジロ <i>Zosterops erythropleurus</i>	○	○	○
ホオジロ科	コホオアカ <i>Emberiza pusilla</i>			○
ムクドリ科	ムクドリ <i>Sturnus cineraceus</i>	○		
カラス科	ハシブトガラス <i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○
	計	15科 23種	11科 13種	16科 31種

※は宇治群島での初記録

10月には、溝口文男（鳥類標識調査員）が標識調査を行った。その結果を表2に示す。

表2 標識を付けた鳥の諸データ

種名	足輪番号	性別	年齢	翼長	尾長	嘴峰長	ふ蹠長
ツミ	6A-14974	♂	幼鳥	150			
キセキレイ	2F-24624	♂	成鳥	83	95		
ウグイス	1C-17268	♀	成鳥	57	58	11	22
ウグイス	1C-17275	♀	成鳥	55	57		
ウグイス	1C-17277	♀	成鳥	54			
キマユムシクイ	1C-17271	不明	幼鳥	56	41		
メボソムシクイ	1C-17270	不明	幼鳥	65	46	11	20
メジロ	1C-17269	不明	不明	60	40	14	19
メジロ	1C-17273	不明	不明	59	42		
メジロ	1C-17274	不明	不明	61	42		
メジロ	1C-17276	不明	不明	59	42		
メジロ	1C-17278	不明	不明				
コホオアカ	1C-17272	不明	幼鳥	70	59		

(数値の単位 mm)

3 出現種について

本調査で出現した21科40種を本県における季節移動で類別すると、オオミズナギドリ、カツオドリ、ゴイサギ、アマサギ、コサギ、アオサギ、ミサゴ、トビ、ハヤブサ、カラスバト、コゲラ、キセキレイ、モズ、イソヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ハシブトガラスの留鳥18種(45%)、ウミウ、コガモ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、サシバ、キアシシギ、チュウシャクシギ、タシギ、カンムリカッコウ、ツバメ、ツメナガセキレイ、ハクセキレイ、ムネアカタヒバリ、ジョウビタキ、ノビタキ、キマユムシクイ、メボソムシクイ、サメビタキ、コサメビタキ、コホオアカの渡り鳥22種(55%)となる。これらのうち、宇治群島で繁殖が確認されているのは、オオミズナギドリ、ミサゴ、カラスバトの3種で、いずれも本群島に周年生息している種である。渡り鳥のうち宇治群島で繁殖するものは確認されていない。しかし、本群島においては繁殖調査がほとんど行われていないため、繁殖に適した環境が存在するイソヒヨドリなどいくつかの種については繁殖している可能性もある。他の大部分の種については、渡りの途中で立ち寄ったものや、周辺地域から漂行してきたものと推測される。

今回の調査で出現した鳥類のうち、注目すべきものはハチクマ、カンムリカッコウ、コゲラ、キマユムシクイ、ミサゴである。

(1) ハチクマ

ハチクマは、例年10月上旬を中心に大隅半島、薩摩半島を南下する個体がよく観察されるが、宇治群島では初めて観察された。これらの個体群は九州本土を南下せずに、長崎県から海上のルートで本群島を経由して、南西諸島に向かうものと推測される。

(2) カンムリカッコウ

日本では極めて稀な迷鳥で、本県では1974年5月に宝島で確認されて以来、2例目となる貴重な記録となった(ビデオ撮影)。カンムリカッコウはインド・ネパール・中国南部・東

南アジアで繁殖し、中国南部のものは冬季にフィリピン・大スンダ列島へ渡る。

(3) コゲラ

9月の調査で、初記録としてコゲラを数羽確認した。確認場所は、向島南東部の笠沙岳北東斜面の標高130m付近で、モクタチバナを中心とする照葉樹の風衝低木林内である。コゲラは留鳥性が高く、あまり移動しない鳥であるが、本島に留鳥として生息しているのか、漂行なのかは不明である。

これまでの県内における分布は、県本土全域（亜種コゲラ）と種子島・屋久島（亜種ミヤケコゲラ）、奄美大島・徳之島（亜種アマミコゲラ）であり、その他の島々には記録がないことから、今回の確認は興味深い。

(4) キマユムシクイ

10月に、林縁のマツで3羽を目撃した。枝の間をひっきりなしに動き回って餌を探していた。キマユムシクイは、オホーツク海沿岸・中央アジア・中国北西部で繁殖し、冬季はパキスタン・マレー半島・中国南部に渡る。日本では旅鳥又は冬鳥として少数が渡来し、日本海の離島及び南西諸島からの記録が多い。

(5) ミサゴ

1つがいの家島南東岸の海から高く突き出た岩に営巣しているのを確認し、ビデオに収めた。家島周辺には営巣に適した岩場が数カ所あるので、他にも営巣している可能性がある。

おわりに

9月の調査では初めて向島に上陸することができた。向島は、家島の2倍ほどの大きさで照葉樹林もあり、家島とは異なる種が生息している可能性があるが、断崖に阻まれなかなか上陸できないので十分な調査がなされていない。当初、南側の笠沙岳周辺で調査を行う予定であったが、登坂に予想以上の時間がかかったため、鳥類の調査はほとんどできなかったのは残念である。

宇治群島の調査を3回にわたって実施したが、各回とも調査のために活用できた時間は実質でそれぞれ1日分ほどしかなかったため、島全体にわたっての調査は行えなかった。宇治群島の鳥類相を明らかにするためには、繁殖期を中心として、年間を通じた継続的な調査が必要である。

引用・参考文献

鹿児島県, 1975, 鹿児島県の野鳥.

鹿児島県, 1987, 鹿児島県の野鳥.

環境庁, 2000, 日本産鳥類目録.

所崎聡・山元幸夫, 1999, 鹿児島県産鳥類リスト. 鹿児島県立博物館研究報告第18号, 21-42.

鮫島正道, 1994, 宇治群島の自然(鳥類). 鹿児島県の自然調査事業報告書I, 鹿児島県立博物館.

山元幸夫, 2002, 宇治群島家島の自然調査概要報告(2001年11月の宇治群島家島の鳥類観察記録).

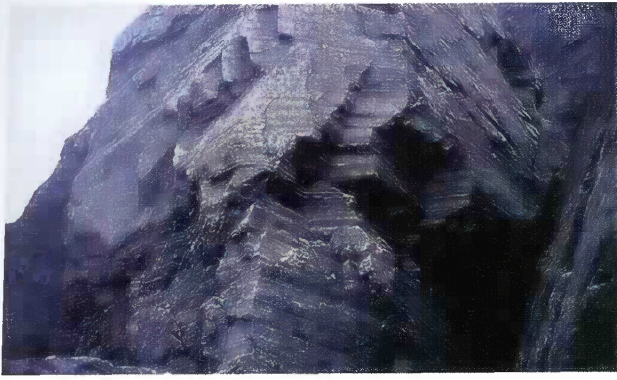
鹿児島県立博物館研究報告第21号, 12-13.

付表 宇治群島産鳥類リスト (36科116種)

	科 名	種 名・学 名
1	カイツブリ科 Family Podicipedidae	カイツブリ <i>Tachybaptus ruficollis</i>
2	ミズナギドリ科 Family Procellariidae	オオミズナギドリ <i>Calonectris leucomelas</i>
3	カツオドリ科 Family Sulidae	カツオドリ <i>Sula leucogaster</i>
4	ウ科 Family Phalacrocoracidae	ウミウ <i>Phalacrocorax capillatus</i>
5	サギ科 Family Ardeidae	ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax</i>
6		ササゴイ <i>Butorides striatus</i>
7		アカガシラサギ <i>Ardeola bacchus</i>
8		アマサギ <i>Bubulcus ibis</i>
9		ダイサギ <i>Egretta alba</i>
10		チュウサギ <i>Egretta intermedia</i>
11		コサギ <i>Egretta garzetta</i>
12		クロサギ <i>Egretta sacra</i>
13		アオサギ <i>Ardea cinerea</i>
14	カモ科 Family Anatidae	カルガモ <i>Anas poecilorhyncha</i>
15		コガモ <i>Anas crecca</i>
16	タカ科 Family Accipitride	ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i>
17		ハチクマ <i>Pernis apivorus</i>
18		トビ <i>Milvus migrans</i>
19		アカハラダカ <i>Accipiter soloensis</i>
20		ツミ <i>Accipiter gularis</i>
21		ハイタカ <i>Accipiter nisus</i>
22		ノスリ <i>Buteo buteo</i>
23		サシバ <i>Butastur indicus</i>
24	ハヤブサ科 Family Falconidae	ハヤブサ <i>Falco peregrinus</i>
25		チゴハヤブサ <i>Falco subbuteo</i>
26		チョウゲンボウ <i>Falco tinnunculus</i>
27	クイナ科 Family Rallidae	バン <i>Gallinula chloropus</i>
28	シギ科 Family Scolopacidae	トウネン <i>Calidris ruficollis</i>
29		ウズラシギ <i>Calidris acuminata</i>
30		コアオアシシギ <i>Tringa stagnatilis</i>
31		アオアシシギ <i>Tringa nebularia</i>
32		キアシシギ <i>Heteroscelus brevipes</i>
33		イソシギ <i>Actitis hypoleucos</i>
34		ソリハシシギ <i>Xenus cinereus</i>
35		チュウシャクシギ <i>Numenius phaeopus</i>
36		ヤマシギ <i>Scolopax rusticola</i>
37		タシギ <i>Gallinago gallinago</i>
38	ヒレアシシギ科 Family Phalaropodidae	アカエリヒレアシシギ <i>Phalaropus lobatus</i>
39	カモメ科 Family Laridae	ハシブトアジサシ <i>Gelochelidon nilotica</i>
40	ハト科 Family Columbidae	カラスバト <i>Columba janthina</i>
41		キジバト <i>Streptopelia orientalis</i>
42		ズアカアオバト <i>Sphenurus formosae</i>
43	カッコウ科 Family Cuculidae	カッコウ <i>Cuculus canorus</i>
44		ホトトギス <i>Cuculus poliocephalus</i>
45		カンムリカッコウ <i>Clamator coromandus</i>
46	フクロウ科 Family Strigidae	コノハズク <i>Otus scops</i>
47		フクロウ <i>Strix uralensis</i>
48	アマツバメ科 Family Apodidae	ヒメアマツバメ <i>Apus affinis</i>
49		アマツバメ <i>Apus pacificus</i>
50	カワセミ科 Family Alcedinidae	ヤマシヨウビン <i>Halcyon pileata</i>
51		アカシヨウビン <i>Halcyon coromanda</i>
52		カワセミ <i>Alcedo atthis</i>
53	ブッポウソウ科 Family Coraciidae	ブッポウソウ <i>Eurystomus orientalis</i>
54	ヤツガシラ科 Family Upupidae	ヤツガシラ <i>Upupa epops</i>
55	キツツキ科 Family Picidae	コゲラ <i>Dendrocopos kizuki</i>
56	ヒバリ科 Family Alaudidae	ヒバリ <i>Alauda arvensis</i>
57	ツバメ科 Family Hirundinidae	ツバメ <i>Hirundo rustica</i>
58		コシアカツバメ <i>Hirundo daurica</i>

	科 名	種 名・学 名
59	セキレイ科 Family Motacillidae	イワミセキレイ <i>Dendronanthus indicus</i>
60		ツメナガセキレイ <i>Motacilla flava</i> 亜種マミジロツメナガセキレイ <i>M.f.simillima</i> 亜種キタツメナガセキレイ <i>M.f.macronyx</i>
61		キガシラセキレイ <i>Motacilla citreola</i>
62		キセキレイ <i>Motacilla cinerea</i>
63		ハクセキレイ <i>Motacilla alba</i>
64		ピンズイ <i>Anthus hodgsoni</i>
65		ムネアカタヒバリ <i>Anthus cervinus</i>
66	サンショウクイ科 Family Campephagidae	サンショウクイ <i>Pericrocotus divaricatus</i>
67	ヒヨドリ科 Family Pycnonotidae	ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis</i>
68	モズ科 Family Laniidae	モズ <i>Lanius bucephalus</i>
69		アカモズ <i>Lanius cristatus</i>
70	ミソサザイ科 Family Troglodytidae	ミソサザイ <i>Troglodytes troglodytes</i>
71	ツグミ科 Family Turdidae	ノゴマ <i>Luscinia calliope</i>
72		コルリ <i>Luscinia cyane</i>
73		ルリビタキ <i>Tarsiger cyanurus</i>
74		クロジョウビタキ <i>Phoenicurus ochrurus</i>
75		ジョウビタキ <i>Phoenicurus aureorus</i>
76		ノビタキ <i>Saxicola torquata</i>
77		イソヒヨドリ <i>Monticola solitarius</i>
78		マミジロ <i>Turdus sibiricus</i>
79		アカハラ <i>Turdus chrysolaus</i>
80		シロハラ <i>Turdus pallidus</i>
81		マミチャジナイ <i>Turdus obscurus</i>
82		ツグミ <i>Turdus naumanni</i>
83	ウグイス科 Family Sylviidae	ウグイス <i>Cettia diphone</i>
84		オオヨシキリ <i>Acrocephalus arundinaceus</i>
85		キマコムシクイ <i>Phylloscopus inornatus</i>
86		メボソムシクイ <i>Phylloscopus borealis</i>
87		センダイムシクイ <i>Phylloscopus coronatus</i>
88	ヒタキ科 Family Muscicapidae	キビタキ <i>Ficedula narcissina</i>
89		ムギマキ <i>Ficedula mugimaki</i>
90		オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i>
91		サメビタキ <i>Muscicapa sibirica</i>
92		エゾビタキ <i>Muscicapa griseisticta</i>
93		コサメビタキ <i>Muscicapa dauurica</i>
94	カササギヒタキ科 Family Monarchidae	サンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata</i>
95	メジロ科 Family Zosteropidae	メジロ <i>Zosterops japonicus</i>
96	ホオジロ科 Family Emberizidae	ホオジロ <i>Emberiza cioides</i>
97		シロハラホオジロ <i>Emberiza tristrami</i>
98		ホオアカ <i>Emberiza fucata</i>
99		コホオアカ <i>Emberiza pusilla</i>
100		キマユホオジロ <i>Emberiza chrysophrys</i>
101		カシラダカ <i>Emberiza rustica</i>
102		ミヤマホオジロ <i>Emberiza elegans</i>
103		シマアオジ <i>Emberiza aureola</i>
104		シマノジコ <i>Emberiza rutila</i>
105		ノジコ <i>Emberiza sulphurata</i>
106		アオジ <i>Emberiza spodocephala</i>
107		クロジ <i>Emberiza variabilis</i>
108	アトリ科 Family Fringillidae	アトリ <i>Fringilla montifringilla</i>
109		マヒワ <i>Carduelis spinus</i>
110		アカマシコ <i>Carpodacus erythrinus</i>
111		イカル <i>Eophona personata</i>
112		シメ <i>Coccothraustes coccothraustes</i>
113	ムクドリ科 Family Sturnidae	コムクドリ <i>Sturnus philippensis</i>
114		ムクドリ <i>Sturnus cineraceus</i>
115	カラス科 Family Corvidae	ハシボソガラス <i>Corvus corone</i>
116		ハシブトガラス <i>Corvus macrorhynchos</i>

宇治群島向島の地形・地質



珪質な凝灰岩の互層 (P 3の図2の地点①)



化石を含む泥岩 (P 3の図2の地点②)



石灰質の部分が溶蝕された化石 (P 3の図2の地点②)

宇治群島の植物



ボタンボウフウ (家島)



南西部のガレ場と風衝低木林 (向島)



ハラン群落 (向島)



ヒゲスゲの花 (向島)